

1 か月を振り返って

谷野 則文

4月の保育園スタートは、大人も子どもも新しい生活の始まりでしたね。期待や不安が入り混じり、心身ともに疲れが出やすい時期だったのではないのでしょうか。私自身も「頭を整理し、考えを巡らせる」という慣れない作業に、心の疲れを実感する日々でした。そこで、自分の視野を広げるために保育室に足を延ばしてみることにしました。すると、慣れない環境の中で子どもたちが困って泣いている声や「イヤイヤ」の表現、楽しそうに笑う友達との遊び、そしてケンカして言い合いをしているシーンに出くわしました。そのどれにも担任が一生懸命間に入り、「どうやったら子どもたちが安心するだろう？」と悩みながら奮闘している様子を感じました。

現場で見える「奮闘」と、その裏にある「叫び」

しかし、一見平和に見える風景の裏側には、実は職員間でちょっとした気掛かりを伝え合えないことが積み重なり、「もうしんどい！」という心の叫びも事実としてあったのです。誰だって気持ちに余裕がなくなれば些細なことを気にしすぎてしまい、感情のコントロールが難しくなるのは当然です。そこで、一つひとつの疑問や思ったことを個別に話すのではなく「一緒に働く場を作る仲間」として職員間で話し合いました。

「言葉の交通整理」が話し合いを前に進める

赤裸々に気持ちを表現することは大切ですが、思ったことをそのまま言葉にするだけでは、真意はなかなか伝わりません。私自身思いが先走って言葉のチョイスを間違い、誤解されることも多いのです。今回の話し合いでは、前川主任が第3者の役割を発揮してくれました。「こう言っていたけれど、こういう事じゃないか？」「その言葉では相手に伝わらないと思うよ」という客観的な投げかけです。いわば「言葉の交通整理」のような役割が入ることで、仲間たちも「問題点は何だろう？」と悩む時間を共有できました。その結果、「いかに自分事にして、その時々で声を上げて伝えるか」ということを再確認できたのです。仕事を前に進めるための話し合いは、費やした時間も無駄じゃなかったと皆が感じられる瞬間になります。

「ゴタゴタ」を隠さない理由

こうした職員間の葛藤や解決のプロセスは、クラス懇談会でもお伝えしています。2歳児クラスの懇談会では、保育士同士の意見のぶつかり合い（モヤモヤを解消するまでのゴタゴタ話）をあえて紹介しました。なぜそんな話をするのか。それは、一見遠回りに見える「真意を確認し合う作業」こそが、共に保育を作っていく上での「根本の共通理解」に不可欠だと考えているからです。（※詳細はうさぎ組のページにて）

「話し合いがあることの健全さ」

職員会議で4月を振り返った際、新人職員の大上保育士がこんな言葉をくれました。「こんなに話し合いをする場は初めて。でも、こうして話し合うことに『健全さ』を感じる」と。私はハッとさせられました。園内では日々、サラダボウルのように多様な出来事が起きていますが、その一つひとつにみんなで向き合う。当園が大切にしてきたこの積み重ねの意味を、彼女の言葉が改めて教えてくれました。

保護者の皆さんも「子育ての仲間」です！

この1か月は、チームの連携という課題に向き合う日々でした。これはこれからも続いていく挑戦です。保護者の方も、日常の中で感じた疑問や不安があればぜひ届けてください。職員と保護者の関係も慣れるまでお互い緊張した雰囲気が続くことと思います。私をはじめ職員も至らない点が多々あると思いますが、厳しく批判するばかりでなくどうぞ職員を育ててあげるくらいの気持ちでお願い致します。どうぞよろしくお願い致します。